資料５

長崎駅周辺のまちづくりシンポジウムのアンケート調査結果

長崎県企画振興部まちづくり推進室

１　アンケート調査の概要

長崎駅周辺のまちづくりシンポジウムの参加者を対象に、「第１回長崎駅周辺のまちづくりシンポジウムアンケート」を会場配布して記入方式によって回収した。アンケートの配布回収は平成 26 年４月 13 日に実施した。約 300 人の出席者の内 140 人より回収し、回収率は 46%である。

２　回答者の属性

回答者の属性は、男性が 115 名（82%）、女性が 23 名（16%）である（無回答は２名）。年齢構成は、40 代（25%）と 50 代（24%）で約半数を占めている。また、回答者の所在地は、長崎市内在住者が 104 人（74%）であった。

３　シンポジウムの周知

今回のシンポジウム開催をどこで知り得たか聞いたところ、「県や市のホームページや広報誌」42%、次に「関係団体を通じて」31%となっており、インターネットが進んだ今でも広報誌や口コミなどでの周知が高い傾向にある。関係者からの口コミや広報誌を活用した周知方法は今後も多用すべきである。

４　基調講演の印象

篠原修氏（東京大学名誉教授）の基調講演「駅から始まるまちづくり」に関して印象を聞いたところ、「非常に共感した」29%、「関心を持って聞いた」66%と良い印象を持ったことが伺える。

基調講演に関する意見、感想を聞いたところ

・わかりやすい講演
・西洋、日本の駅舎の違い
・いい駅を作るのであれば行政の職員を途中で変えないこと
・駅なかからまちなかへ

など、基調講演で篠原氏が話された内容に興味関心を持った方の意見や感想が多く聞かれた。

５　パネルディスカッションの印象

パネルディスカッション「新しい長崎駅に何を望むか」を聞いて、どのように思ったか聞いた。「大変良かった」27%、「良かった」54%と８割の方々が良い印象を持ったことが伺える。

パネルディスカッションに関する意見、感想を聞いたところ

・時間が短い
・議論を活発にしてほしい
・旭大橋の低床化、ドラゴンプロムナードの撤去
・今後の設計に期待

など、パネルディスカッションでの行政説明や自己紹介が長くなり、ディスカッションの時間が短かったなどの意見もあり、今後のシンポジウムでの課題としたい。一方で、長崎駅周辺の基本設計に関する期待も多く聞かれた。

６　駅舎・駅前広場等のデザイン案の印象

駅舎・駅前広場等のデザインチームから提案されたデザイン案を見て（聞いて）、どのように思うか聞いたところ、「大変良かった」29%、「良かった」45%と高い評価結果となっている。現在のデザイン案は、今後の基本設計を行う設計チームを選ぶ際に参考としたものであり、デザイン案で選んだ訳ではない。しかしながら、今回のシンポジウムで説明することで会場の参加者は具体的に長崎駅の完成イメージを持つことができたのではないだろうか。

デザイン案に関する意見、感想を聞いたところ、多様な意見感想が聞かれた。基本設計を実施する際の参考としたい（詳細は資料を参照）。

７　長崎駅周辺のまちづくりへの関心度

シンポジウムを通じて、長崎駅周辺のまちづくりについて、関心が深まったか聞いた。「非常に関心が深まった」30%、「関心が深まった」51%とする回答が多い（８割以上）。

意見、感想を聞いたいところ以下のとおりである。

・今後の土地利用に関する意見
・市民の意見の重要さ

など、長崎駅周辺のまちづくりに高い関心を持ってもらえた。第２回のシンポジウムの参考としたい。

８　今後のシンポジウムへの参加

長崎駅周辺のまちづくりシンポジウムについては、あと２回程度開催する予定であるが、今後も参加するかどうか聞いたところ、「ぜひ参加したい」48%と「時

間が合えば参加したい」35％が８割以上を占めている。今後の開催に期待が大きいことが伺える。

意見、感想は以下のとおり。

・市民が知りたい話題を提供してほしい

・休日の開催を

など、今後のシンポジウムの内容については、基本設計の途中段階での説明や市民・県民の関心を高める工夫など検討していきたい。

９　シンポジウムに関する意見

シンポジウム、長崎駅周辺のまちづくりについて、意見・感想を記入して頂いた。主な内容は下記のとおり。

・バリアフリー化に関する意見

・交通問題（自動車、バス、路面電車）に関する意見

・周辺施設へのアクセス性向上に関する意見

・駅舎施設（構造、高架下利用）に関する意見

・景観阻害施設に関する意見

・参加機会に関する意見

など、大変貴重な意見を頂いた。今後、長崎駅周辺のまちづくりでは、駅舎・駅前広場等のデザイン基本設計を策定する作業が本格化するが、これらの意見を参考に設計の深度化を進めていく予定である。

１０　まとめ

(1)アンケート回答者の多くは、長崎駅周辺のまちづくりへの関心が深まった。

(2)基調講演は、西洋の駅舎と日本の駅舎を比較するなどわかりやすい講演内容であり、参加者には好評であった。次回のシンポジウムでは、今回の基調講演を踏まえた内容になるように検討する必要がある。

(3)パネルディスカッションでは、行政側の説明や自己紹介に時間を要し、討議時間が短かったとの意見もあった。また、参加者との意見交換の時間も短かったとの意見もあった。このため、次回のシンポジウムでは会場から意見を頂く時間を多く設けてパネラーとの意見交換を活発化する検討も必要である。

(4)長崎駅周辺のまちづくり以外の話題として、新県庁舎、ＭＩＣＥ、旭大橋低床化およびドラゴンプロムナードに関する意見もあった。

(5)アンケート用紙は裏表で回答するようになっていたが、裏面の回答に無回答が多く見受けられたため、次回は改善する必要がある。

平成 26 年４月 30 日作成

第1回　長崎駅周辺のまちづくりシンポジウム　アンケート結果

Ⅰ　性別

男性	女性	無回答
115	23	2

年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
1	17	12	35	33	22	14	6

住所

市内	市外	無回答
104	33	3

※回答があった「県外」
佐世保市2、諫早市8、大村市3、西海市1、長与町6、
時津町3、東彼杵町1、福岡市2、武雄市1、横浜市1、東京都2

Ⅱ　どこで知ったか

①	②	③	④	無回答
12	61	45	26	2

※複数回答6名
※回答があった「その他」
ポスター1、チラシ2、ツイッター1、家族から1

Ⅲ　基調講演について

①	②	③	④	⑤	無回答
40	93	2			5

Ⅳ　パネルディスカッションについて

①	②	③	④	⑤	無回答
38	75	3	3		21

Ⅴ　デザイン案について

①	②	③	④	⑤	無回答
41	63	3		6	27

Ⅵ　駅周辺のまちづくりについて

①	②	③	④	⑤	無回答
42	72			2	24

Ⅶ　今後のシンポジウムの参加について

①	②	③	④	無回答
67	49		4	20

Ⅷ　主なご意見（抜粋）

寄せられたご意見等については4ページ以降

- ○ 決して「難しい」で済ませず、新駅への路面電車の乗入を真剣に検討して欲しい
- ○ プロジェクト完了まで担当を替えない方がいいという意見は現実的に難しいが、考え方を継続していくしくみづくりは必要である
- ○ パネリスト同士や会場との意見交換の時間をもっと設けて欲しかった
- ○ 高齢者も含めた地域住民が日頃集うことができる駅にして欲しい
- ○ 旭大橋は低床化し、ドラゴンプロムナードは撤去して欲しい
- ○ MICEを含め、高架下や保留地がどう利用されるのか情報提供して欲しい
- ○ 市民や観光客が不便を感じない二次アクセスの検討をお願いしたい
- ○ これまでのアーバンデザインの流れに沿ったデザインであることを期待する。新駅と新県庁舎が一体感に溢れ、県外客が駅に降り立つと同時に高揚感に包まれるデザインとなることを期待する
- ○ 今後の検討状況について、しっかりと市民へ情報提供してもらいたい
- ○ 市民がどこまで計画作りに関われるか教えて欲しい。機会があれば参画したい
- ○ 篠原先生の講演は、多くの組織が関わるのでそれぞれの思惑はあるだろうが、大切な方向性を見失ってはいけないというメッセージだったように思う

◆寄せられたご意見・ご感想

○ 基調講演に関する意見

- 駅の整備が広場機能の整備などのまちづくりに直結すること、成果を上げるには市民の関心と関係者の連携が重要であることを再認識することができた。先生も言われていたが、新駅への路面電車の乗入を是非実現して欲しい。決して「難しい」で済ませないで欲しい
- 新長崎駅に路面電車の乗り入れができれば、観光客など人の移動が便利になると思う
- 電車の路線を広範囲にし、宿泊施設も充実させれば、長崎に多くの観光客が訪れるのではないか
- 青森駅も秋田駅も京都駅もどこに行っても同じ「ツルツル感」が好きではない。ツルツルした建物は機能は最高でも、見た目も歩く感じも疲労感を覚える。古い駅は安心感がある。白や銀色やガラスの反射色は何とかならないか。旅情を高める終着駅の感じを是非お願いしたい
- 空間のある楽しい駅にして欲しい
- イスタンブールのアンカラエキスプレスの発着駅やボスポラス海峡に面した海辺の駅であるハイダルパシャ駅のような「旅情」ある駅にしていただきたい
- いろんな人が集まりやすく、独りでも大勢でもゆっくりした時間を過ごせるような駅前にして欲しい。
- 日向駅のように市民活動の拠点となるような広場を有する駅になることを期待する
- 「良い駅になるかどうかは市民次第」、「県市の職員は完成まで異動しない」、「駅なかよりまちづくり」、「路面電車は駅内に乗り入れる」など同感することが多かった
- 職員を途中で変えてはいけないという指摘は耳が痛いが、全くそのとおりであると思う
- 設計担当、行政担当はこのプロジェクトが完成するまで替えない方がいいという意見は現実的に難しい点もあるので、考え方を継続していくしくみ（方法）を作る必要があると思う
- 良いものを作るには、よほどのことがない限りメンバーは変えないというのは大事である
- 理想はチームメンバーの固定であるが、当初のスタッフがベストとは限らない。世相は成長していくものであり、時代の変化にも対応する必要があるのではないか。ただし、主旨の一貫性は必要である
- コンペ方式で施工者を決めること、プロジェクトメンバーは完了するまで替えない方が良い等興味深い話が聞けた
- 市民の意見を聞いて実現できれば素晴らしいと思うが、行政側の意向が強く働くのではないか
- 何事も人が動くべきと思った
- 上手くいくかどうかは、結局「人の力」であると強く感じた
- 「駅を自分のものに」、「駅なかからまちづくりへ」というお話がよかった。長崎でも実現して欲しい
- 「駅なかからまちづくりへ」は共感できるが、JR九州への拘束力がないのであれば、JRの独り勝ちで、街や地元商店街は疲弊するのではないか
- 全く共感した。駅周辺やまちづくりは、自分たちのこととして意見を出し合うことが大切である。使い勝手と人にやさしい建物がいい
- もっともっと若者の参加をお願いしたい
- 今のまちづくりは経済性も考える必要があり、安く発注する仕組みが悪いとばかりは言えない。総合的な評価が必要である
- お金はかかっても、まちづくりの中心であり、100年後まで誇れる立派な施設を造って欲しい
- お金をいくらかけてもいいのであればいいが
- これからのコミュニティにおける駅のあり方がわかってよかった
- 西洋と日本の駅に対する考えを知ることができてよかった
- 「将来の世代に残す遺産として、長崎駅のデザインに取り組むことが大事」という意見には同感である
- 他県にいた頃、新幹線の駅ができて、急速に周辺が変わっていったことを思い出し、早く長崎にもできるといいなと思った
- 高齢であるが、未来の長崎への夢を私なりのキャンパスに描きたいと思い参加した。今日の話を聞いて長生きしたいと思った
- 旧来の「人不在」から「人が主人公になる」ような駅づくりの考え方に共感を覚えた
- 篠原先生の期待と警告（注意）と受け取った。とても大きなプロジェクトで、多くの組織、団体、企業が関わってくるので、それぞれの思惑はあるだろうが、大切な方向性を見失ってはいけないというメッセージだったと思う
- 地元の人間にとってはそれが当たり前に感じていたために気付かなかったが、「長崎駅ほど立地条件が良い駅はない」という言葉に感銘を受けた
- 駅を巡る歴史的視点を踏まえた話、国内で最近完成した駅（旭川駅等）の説明は非常に示唆に富んでおり、感銘を受けた

・私が知らないことについての経験、見聞豊かな先生の講演を非常に興味深く聴くことができたので、時間が短く感じた
・駅とまちづくりについて、ヨーロッパの事例などをまじえて講演してもらいわかりやすかった
・長崎駅とまちとの関係について考える必要があると思った
・篠原先生の景観のセンスに期待したい
・もう少し多くの情報を知りたい
・もっと長く聞きたかった
・もっと時間を設けて、詳しい話を聞きたかった
・鉄道と都市の歴史に関心を持った
・すごく判りやすかった
・参考になった
・誰を選ぶかでデザインが変わるので、県・長崎市の見識の高さに敬意を払う。大村も見習うべき。
・市民・県民の参加や関心が不可欠であれば、他のデザインチームに良いアイデアがあった
・プロポーザルで設計会社を決める前にプロポーザルの意義として今回の話をするのならわかるが、プロポーザルが終わって、設計会社が決まっているので今日の話は必要ないのではないか

○ パネルディスカッションに関する意見
・当事者間の意見交換が少なく、単なる紹介で終始したのが残念だった
・パネリスト同士の意見交換や質疑があるとさらに面白味が出たのではないか
・初回だったので、それぞれの主張がメインとなっていた。今後話題を絞ったディスカッションの場として活用してもらいたい
・もう少し具体的な話が聞きたかった
・要望活動をしているようだった。地元からの要望が重要だというPRが必要だと思う
・他の新しい駅の話は参考になったが、新しい長崎駅や在来線の整備について詳しい説明をもう少し聞きたかった
・内容はわかったが、今の市街地（浜町等）がどうなるか心配なので、今後の話をしっかりしていただきたい。
・もう少しディスカッションして欲しい
・県職員には便利な駅だが、市民・県民には電車・バスなどの二次アクセスが不便な駅となる可能性がある。空港・港・道路（高速含む）・市内交通網を統合的に考え、全体を俯瞰した交通アクセスについての提案がない
・長崎駅は終着駅ではなく、離島や海外へ広がる駅であり、帰る人を待つ駅、人が集う駅になってほしい
・新駅に電車を乗り入れるよう電鉄にお願いしたい
・長崎駅に来た人が滞ることなく、不快を感じない交通手段だったり、魅力的な観光地になるような整備が必要
・長崎らしさを是非表現して欲しい
・居住者と来訪者の両方の利便性を確保して欲しい
・市内には小さい子どもたちや若い世代（親子連れ）が元気に遊ぶ空間や施設が非常に少ないと思っている。高齢者も含めて地域住民が日頃集うことができるものにしていただきたい
・観光客増に伴う経済力アップと景観を重視した駅づくりをお願いしたい
・終着駅、海の見える駅のイメージが膨らんだ。大変期待できるイメージだった
・この10年で見違えるような駅周辺になることだろう。子や孫たちのために素晴らしい環境が出来上がるような気がした。期待している
・旭大橋は低床化し、ドラゴンプロムナードは撤去して欲しい
・旭大橋の低床化、ドラゴンプロムナードの玉の撤去については、市民運動を起こし、早期に実現するよう努力してもらいたい
・旭大橋は早期に低床化し、駅からの眺望（海、女神大橋、稲佐山）を大切にしてもらいたい
・ドラゴンプロムナードは「景害」という言葉を聞いてすっきりした。県職員が数年刻みの仕事で壊してきた長崎の景観の責任を誰がとるのか。大波止電停からフェリー乗り場までが遠く、駅も遠くなるのではないかと心配である
・国会議員から質問があった「高架下の活用方策」と「旭大橋をどうするか」という点が、今後どのように進められるのか。
・高架下の指摘はもっともで、重要な課題である
・長崎港を眺められるような設計を希望する
・県庁の建物をもう少し小さくした方が海が見えると思う

・県、市、JR、交通事業者そして市民の立場を越え、協調して良いものを作って欲しい
・関係者の努力がわかり、関心が持てるようになった
・今後、長崎が素晴らしいまちになってほしい
・これからの長崎駅が大変楽しみである。良いものを作ってほしい
・設計領域のスタッフに期待する
・今後の整備計画がよくわかった
・従来の長崎駅の役割と全く異なる「希望溢れるまちづくりの中心」としての役割を長崎駅が背負うことになるのだと感じた
・新しい長崎駅のイメージについていろいろな話が出て、イメージが膨らみ楽しかった
・良い風景でも飽きてしまう。ハードの変化は難しいが、他に方法があるという点は納得できた
・これから始まるという実感がわいた
・提案を実現して欲しい
・東西の動線はよかった
・楽しみである
・シミュレーションできるようなパワーポイントでの説明だったので、大方理解できた。楽しみである。
・市民の理解を得る必要があるとすれば、シンポジウムの周知・集客を含めたやり方をもっと工夫する必要があるのではないか
・別会社を立ち上げ、やる気のある人を各関係機関から出向させてやって欲しい

○ デザインチームのデザイン案に対する意見
・西口広場からの人の動線をどう考えていくのかについて、よく判らなかった
・海が見える眺望デッキが気に入った
・いろんなものを取り入れすぎて、抽象的なものになっているような印象を受けた
・長崎の駅の持つべき魅力を活かす機能的な工夫がしてあった
・殉教の丘（二十六聖人）への動線の明記が評価できる。西口からの水上交通はロマンがあるので、観光に利用して水上交通を復活して欲しい
・駅デザインのコンセプトに共感できたが、電停及びバスロータリーの配置については交通ネットワーク上現実的ではないと思う
・旭川駅や高知駅とのデザインの違いがあまりないように感じた
・駅が観光名所になるようなイメージで楽しくなった
・「終着駅」としてだけでなく、「始発駅」としての顔も演出して欲しい
・シンプルなインダストリアルデザインにして欲しい
・100年の歴史に耐えられるものにして欲しい
・長崎県にふさわしい駅にして欲しい
・具体的にどうなっていくのかもう少し情報提供して欲しい
・若い方の情熱に期待したい
・若い人の感性を十分に活かしていただきたい
・電車やバスとの結節が重要となる
・街と駅はどう繋がるのだろうか
・路面電車の駅側への導入協力が必要だと思う
・地元の熱意が必要だと思う。県・市を動かすような要望が必要だと思う
・維持管理経費がどの程度必要となるのかについて関心がある
・建設費がどのくらいかかるのか
・良い案であるが、費用の面でどうなのか総合的に判断する必要がある
・建設コスト、管理コストを考えると実現可能な計画なのだろうか。がんばってください
・シミュレーションできるようなパワーポイントの説明だったので、大方理解できた。楽しみである。
・今回デザインする「組」が選ばれたとのことだったが、提案されたデザインは、私がイメージしていたドーム型の駅舎だったので驚いた。今後の具体策に期待する
・設計者を決めるときの案を見せて何になるのか
・長崎にはじめて来たときのイメージは、トンネルを抜けた後の斜面地形だったが、トンネルを抜けたら新幹線も見えるのだろうか
・ソウルのように夜に十字架が赤く光るのもある意味いいのではないか

○ 長崎駅周辺のまちづくりに関する意見
・MICEを含め、高架下や保留地がどう利用されるのかについて情報提供して欲しい
・駅周辺には高いマンション等は必要ないのではないか。景観に重点を置いてほしい

・駅前の飲食店の充実（終電まで開いている店）を図って欲しい
・ツルツルの駅ができることで、市民のあきらめを大きくしないで欲しい
・駅を通して、もっと長崎の良さを広めて欲しい
・市民の意見の重要さを感じた
・次回は県庁舎についても説明していただきたい
・参加できなかった友達や親戚に伝えたい
・長崎の将来像を聞くことができて楽しかった

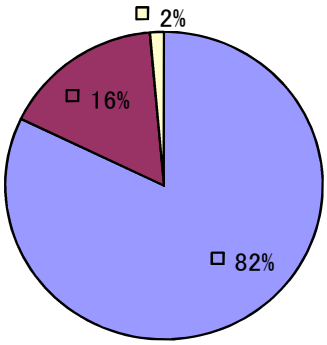
○ 今後開催予定のシンポジウムに対する意見
・大きな屋根の駅舎も流行ではあろうが、昔風のクラシックな駅舎もいいと思う。昔の三角屋根の駅や戦前の駅舎もよかった
・長崎がよくなるように皆で知恵を出し合っていくのが大事だと思う
・今回と同じ話にならないよう、その時点で決まっていること等を教えて欲しい
・完成する頃は高齢社会がピークになっているだろうから、そういった面についても聞きたい
・市民の知りたいことを募って、それをテーマにしたシンポジウムにしてはどうか
・もっと広報して、若者にも参加して欲しいので、自分も知人を誘おうと思う
・休日の開催をお願いしたい
・もう少し長崎の地形を考えて欲しい
・回を重ねると深度化していくのか
・一般市民に対する見えない差別がある。勝手にJR、経済界、役所が進めていくものだという思いが強くなった

○ その他感想等
・駅ビルやホテル、路面電車、バスターミナルとの連携がスムーズになるようにして欲しい。動く歩道など高齢者にも優しい整備を長崎駅周辺のまちづくりに期待している
・区画整理の中で、十分な駐車場を確保して欲しい
・交通問題をもっと検討して欲しい
・現在、矢上方面に行くバス停が東と南にあり、かなり不便である。駅からあらゆるところへバスが行くようになるとうれしい
・キャリアカーに乗っていると電車の乗降が不便である。外国には階段横にスロープが設置されており大変よかった。老人に優しい施設にして欲しい
・路面電車は必ず駅舎に入れること
・駅舎と路面電車の電停との距離がかなり遠くなるのが少し気になった
・交通結節や動線をメインテーマにしたシンポジウムにして欲しい
・駅に駐車場を造るにあたっては、東口からのアプローチもスムーズになるような方策を望む。新青森駅のようにバス・タクシーと自家用車を分断したため、バス・タクシーの動線しか知らない人が自家用車のアプローチがわからなくなるというデメリットは避けて頂きたい。
・駅とのギャップがありすぎるので、キリスト教の聖地である二十六聖人へのアクセスや大黒町の整備もして欲しい
・二十六聖人は出島以前の都市の歴史を象徴する場所であり、視点場を設けるなどして二十六聖人の眺望景観を確保して欲しい。海や山はどこにでもあるが、この景観はオンリーワンである
・新幹線・在来線一体の駅舎として欲しい
・この街には伝統と文化が深く根付いている。まちづくりには、観光立県長崎へのリピーター増のため、あるいは生活者の憩いの場としての残すべき伝統と文化に対する配慮も必要である。
・長崎ならではのレンガ、石畳、ステンドグラスを取り入れて欲しい
・終着駅として観光客を受け入れられれば良いが、逆に出発地となり、買い物人口が福岡などに流れていかないか心配である
・長崎駅に下りたら海が広がって見えるように、県庁・その他の建物の配置に配慮してほしい。世界への窓口となる港駅として考えて欲しい
・富岡議員からガード下の活用の話があったが、長崎新幹線が開通すると福岡への通勤がいよいよ視野に入ってくると思うので、働く人のための施設、保育園、保育園利用者のための駐車場としての活用があればいいと感じた。（例えば長崎駅まで自家用車で来て、保育園に子どもを預け、福岡へ新幹線で通勤し、帰りはその逆という活用イメージ）

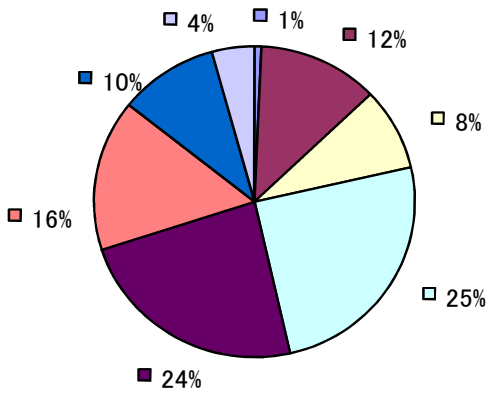
・これまでのアーバンデザインの流れに沿ったデザインであることを期待する。新駅と新県庁舎が一体感に溢れ、県外からお越しいただいた方々が駅を降り立つと同時に高揚感に包まれるようなデザインであることを期待する
・駅前商店街と新駅との関連がどうなるか心配である
・今後どのように整備方針が決まっていき、どのような検討がなされたのか等について、今後開催のシンポジウムやHPなどで、しっかりと市民へ情報提供をしてもらいたい
・次回も期待しているが、もう少しディスカッションの時間をとって欲しい
・篠原先生が説かれるように、デザインやコンセプトを途中で変えることなく進めることが大切と思う
・市民がどこまで計画作りに入れるか知りたい。「駅を自分のものに」とあったが、今日のシンポジウムでどう関われればいいか判った。何かあれば是非関わりたい
・長崎大学の学生です。今、学生の意見を長崎のまちづくりにつなげていきたいと思い、団体を立ち上げ、活動しています。もし機会があれば是非お話をしてみたいです
・今後ともこのようなシンポジウム等を通じて、まちづくりの計画の周知、啓発に努められ、県民・市民の参画意識の醸成を進めていただきたい
・若者の参加がもっと必要だと思った
・様々な業界の人たちが参加しているので、完成へ向け、最後までベクトルを1つにして、全員参加型で取り組んで欲しい
・新聞や市の広報などを通じ、いくつかのわかりやすい問題毎に、広く市民の希望・アイデアを集めてはどうか
・若い人が気楽に聞ける、参加できるシンポジウムにして欲しい
・関係者が一体となって、官民連携して進めて欲しい
・県と市が互いの立場を尊重しながら連携し、必ず良いものを作って欲しい
・画面が小さくて見えない
・関係者の参加が多かったように思える。関心のある人は来るが、関心のない方に関心を持ってもらうような手法も必要ではないか。来る人は偉い人が多く、敷居が高いような気がする
・長期のプロジェクトになるが、皆が期待しているのでがんばって欲しい
・終着駅として、諫早・大村等にもお客を引っ張るつもりでがんばって欲しい
・人口減の中でまちなかまでの動線をどう確保するのか。各エリアの特色を創造して欲しい
・現在のアミュはどうなるのか。ドラゴンプロムナードは雨漏りや階段が腐っており、景観的にも必要ないのではないか
・ドラゴンプロムナードは確かに景観を損ねているので早くなくした方が良い
・「長崎駅舎を描きたくなるような駅にすることが大事」、「市民の関心と公共の場を大事にする市民が多くなること」、「危機感を持って駅舎を考え、関わること」という篠原先生のコメントが印象的であった
・西彼杵半島の発展にも繋がってほしい
・在来線開業まであと4年しかないのに、まだ今日のような話をしていて間に合うのか
・今のところ、稲佐山と港を見に来るだけの駅としか思えない
・駅と県庁が海に近いので、防災面はどうする予定なのか
・パネリストがMICEを前提に話をしていた

第1回　長崎駅周辺のまちづくりシンポジウム　アンケート結果

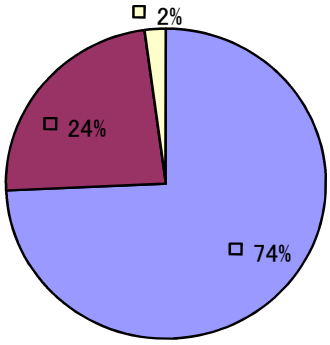
性　別



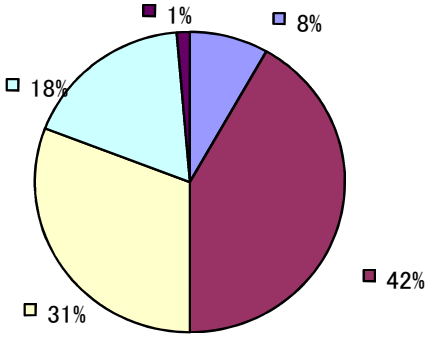
年　齢



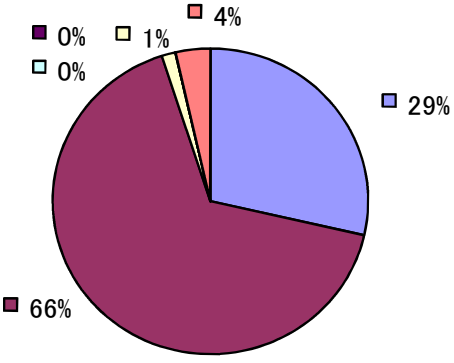
市　内



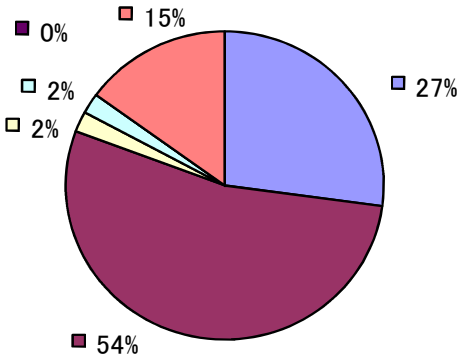
シンポジウム開催を知ったきっかけ

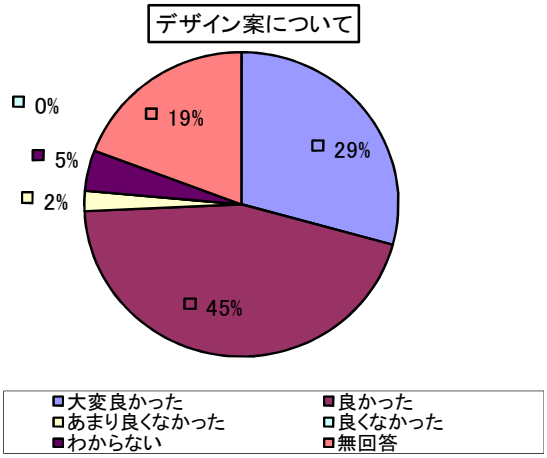


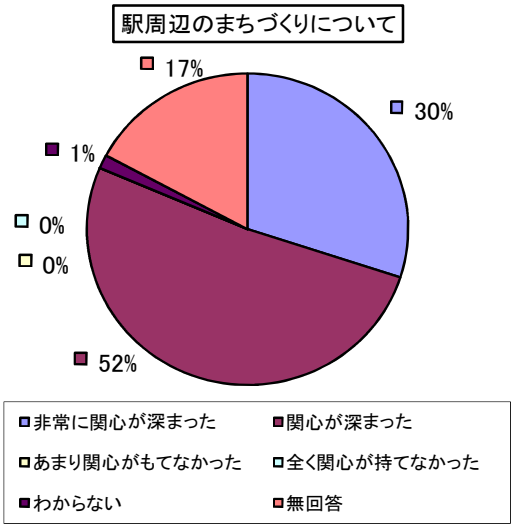
基調講演について

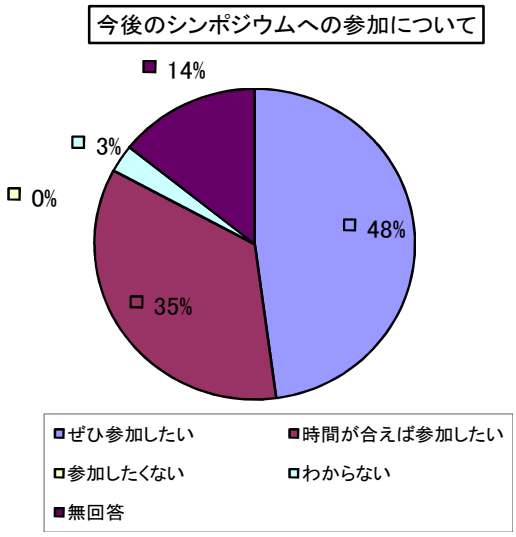


パネルディスカッションについて




デザイン案について
0%
19%
29%
5%
2%
45%
大変良かった
良かった
あまり良くなかった
良くなかった
わからない
無回答


駅周辺のまちづくりについて
17%
30%
1%
0%
0%
52%
非常に関心が深まった
関心が深まった
あまり関心がもてなかった
全く関心が持てなかった
わからない
無回答


今後のシンポジウムへの参加について
14%
3%
0%
48%
35%
ぜひ参加したい
時間が合えば参加したい
参加したくない
わからない
無回答